

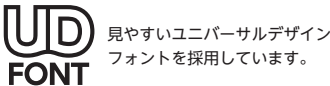
株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで	株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
定時株主総会	6月	同 連 絡 先	東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711（通話料無料） （郵送先）〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行 証券代行部
基準日	定時株主総会・・・3月31日 期末配当・・・3月31日 中間配当・・・9月30日	特 別 口 座 の 口 座 管 理 機 関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
公告方法	電子公告 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 [公告掲載ウェブサイトアドレス] https://www.seiko-co.com/	同 連 絡 先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031（通話料無料）
単元株式数	100株		

- **住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について**
株主さまの口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行にお申し出ください。
- **未払配当金の支払いについて**
株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行にお申し出ください。
- **「配当金計算書」について**
配当金支払いの際に送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。

●ホームページのご案内●

最新のIR情報につきましては、
当社のホームページ「IR情報」を
ご参照ください。
<https://www.seiko-co.com/>



証券コード：6286

第120期
株主通信
2021年4月1日 ▶ 2022年3月31日

あなたのそばに 静甲グループ

毎日の暮らしからものづくりの現場まで、あなたとつながる静甲です



INDEX

静甲グループの事業領域	02
ごあいさつ	03
財務ハイライト	04
事業別の概況	05

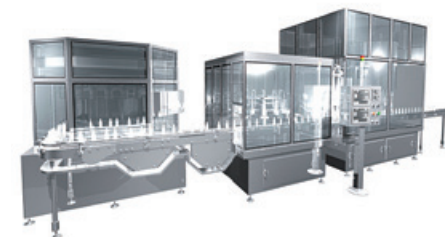
連結財務諸表	07
トピックス	09
会社概要／株式の状況	10

静甲グループの事業領域

Business Area

産業機械事業

包装機械等の製造販売、修理・改造



電機機器事業

FA機器・空調機器・冷凍機器等電機機器の販売及び空調設備設置工事



不動産等賃貸事業

駐車場経営及び貸自動車事業等

冷間鍛造事業

冷間鍛造製品の製造販売



車両関係事業

車両及びその関連商品の販売



グループ会社

- 日本機械商事株式会社（連結子会社）
包装機械の販売
- 静岡スバル自動車株式会社（連結子会社）
スバル車の販売・修理
- 株式会社エコノス・ジャパン（連結子会社）
殺菌装置、食品加工機械等の製造販売
- 静岡自動車株式会社（連結子会社）
車両レンタル・リース業、ガレージ業
- 株式会社共和テック（連結子会社）
一般産業機械の設計・製作、受託設計
- 静岡バイオート株式会社（連結子会社）
ボルボ車の販売・修理
- 株式会社PUREST（連結子会社）
ポルシェ車の販売・修理
- 株式会社ビルメンテ
- エススタッフサービス株式会社
- 有限会社清水久米タイヤサービス

株主の皆さまには平素より格別のご高配を賜りありがたく厚くお礼申しあげます。
さて、当社第120期（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の株主通信をお届けするにあたり、ごあいさつ申しあげます。

当期の業績について

当連結会計年度におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種の進展や行動制限の緩和等により、経済活動にも緩やかな回復がみられるものの、新たな変異株による感染再拡大や世界的な半導体不足、ロシアによるウクライナ侵攻等の影響により、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。
このような経済環境のなか、当社グループにおきましては、「顧客対応力の充実を図る」を方針として掲げ、「人づくり」「仕組みづくり」「ものづくり」を重点課題として定め、各事業において施策を推進しております。
当連結会計年度の当社グループの売上高は、冷間鍛造事業、電機機器事業で前年同期の実績を上回りました。一方、産業機械事業は大型の液体充填ラインの売上が少なかったことで前年同期の実績を下回りました。また車両関係事業も半導体不足による車両供給遅延の影響を受けたことで前年同期の実績を下回りました。
これらの結果、売上高は、前年同期比0.8%減の314億1百万円となりました。
利益面では、産業機械事業の減収に加え、電機機器事業において利益率の低い大型案件があったため、経常利益は前年同期比22.3%減の6億9千6百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は7億5千万円（前年同期は8億4千7百万円の損失）となりました。

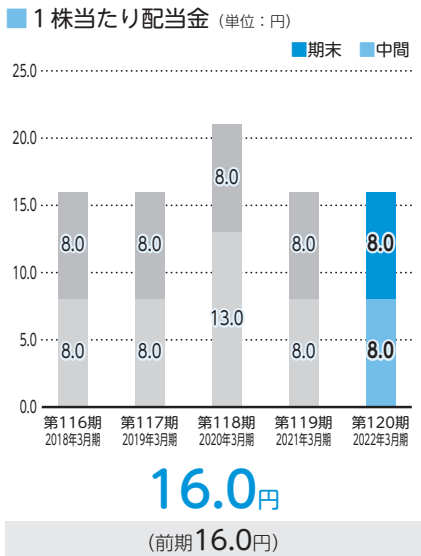
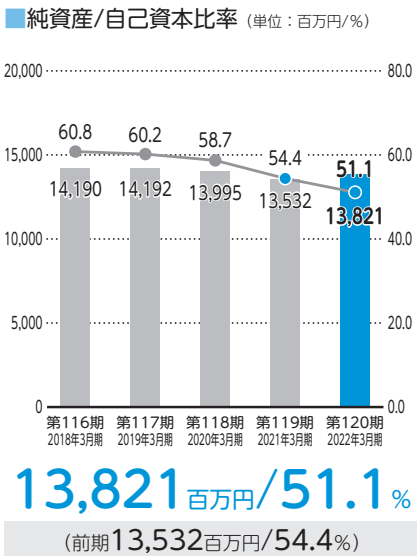
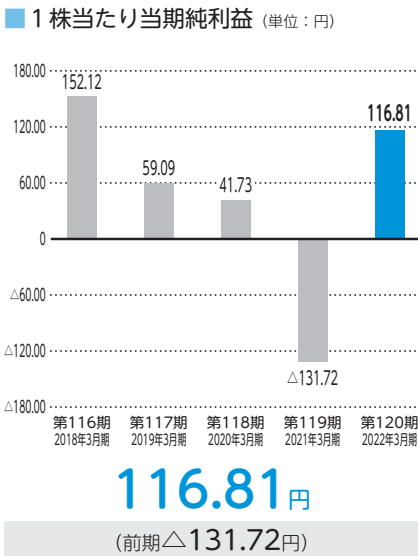
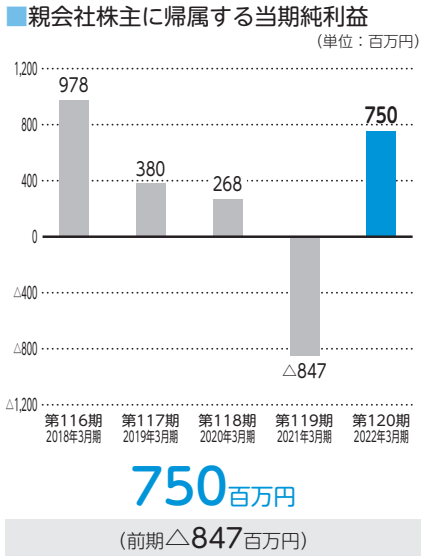
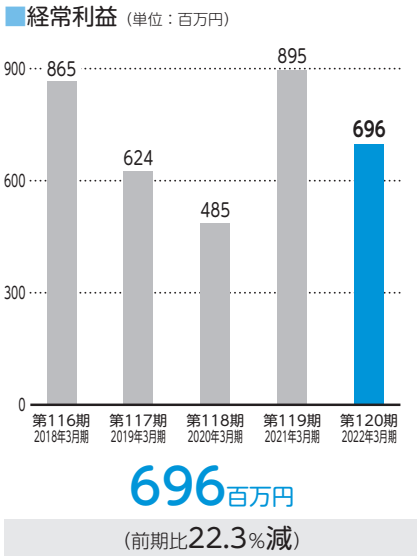
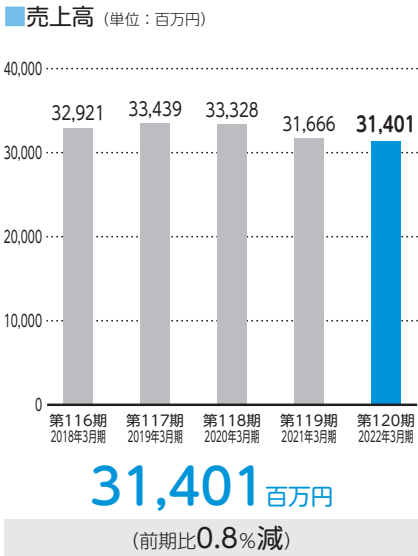
来期の見通しについて

当社グループの次期の見通しにつきましては、産業機械事業では、部品の供給不足により前期末からの受注残案件があるため、増収の見込みであります。一方、制御機器等の納期遅延、部品調達価格の高騰に伴い利益の悪化が懸念されます。電機機器事業では、主力のF A 関連機器で設備投資需要が好調なため、売上は当連結会計年度の実績を上回る見込みであります。また、冷熱機器、空調設備工事も堅調に推移する見込みであります。一方、設備機器・空調周辺部材は半導体不足による納期遅延の懸念があり、当連結会計年度の実績を下回る見込みであります。これらの結果、電機機器事業全体では売上・利益ともに当連結会計年度並みの見込みであります。冷間鍛造事業では、産業機械部品は新規製品の量産開始等により堅調に推移し、自動車部品も当連結会計年度の実績を上回る見込みであります。一方、主力の電動工具部品は主要納入先向け製品の減産により、当連結会計年度の実績を下回る見込みであります。これらの結果、冷間鍛造事業全体では売上・利益ともに当連結会計年度を下回る見込みであります。車両関係事業では、当連結会計年度に投入した新型車が引き続き堅調に推移し、さらに主力車種のモデルチェンジが予定されていることから、登録車の販売台数が増加することが期待されるため、当連結会計年度の実績を上回る見込みですが、輸入車はメーカー事情による供給遅延や国際紛争の影響により、入荷数量減少のリスクがあります。
以上によりまして、2023年3月期における当社グループの売上高は330億円、営業利益は3億円、経常利益は3億5千万円、親会社株主に帰属する当期純利益は2億5千万円となる見通しであります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2022年6月

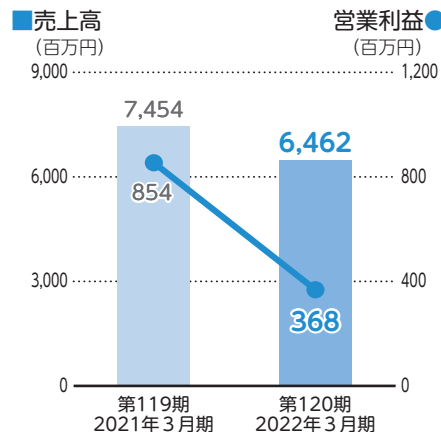
取締役社長 鈴木恵子



産業機械事業

売上高
6,462百万円
(前期比13.3%減)

営業利益
368百万円
(前期比56.9%減)



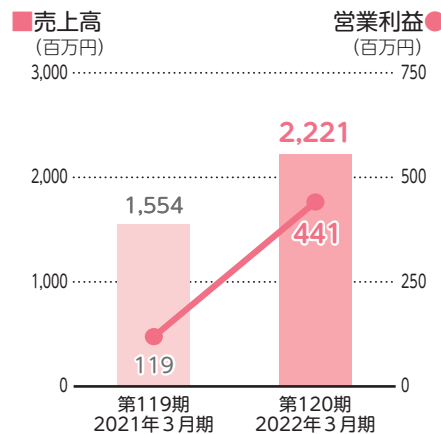
概況

包装機械は、前年同期と比較して大型の液体充填ラインの案件が少なかったことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響と制御機器の長納期化による改造工事の延期などにより前年同期の実績を下回りました。また、部品、保守メンテナンスも前年同期の実績を下回りました。

冷間鍛造事業

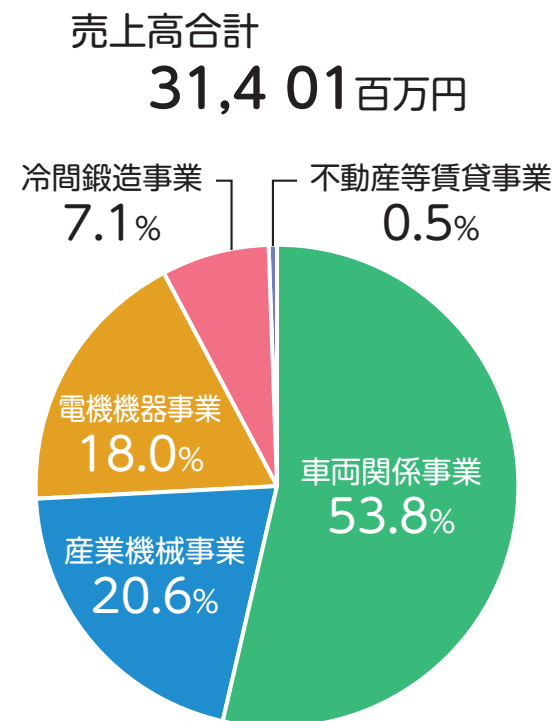
売上高
2,221百万円
(前期比42.9%増)

営業利益
441百万円
(前期比270.6%増)



概況

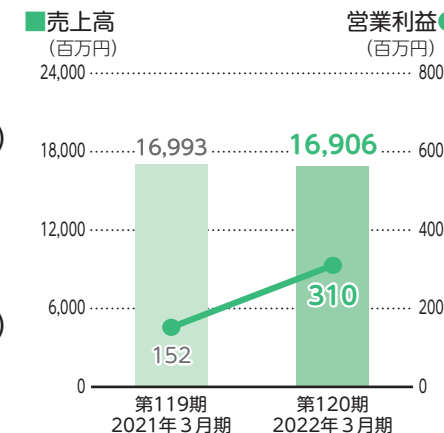
電動工具部品は、主要納入先の製品増産に伴う受注が堅調に推移し、また、産業機械部品は新規製品及び増産を要因として前年同期の実績を大きく上回りました。一方、自動車部品は主要納入先の在庫調整及び生産調整により受注が減少したため前年同期の実績を下回りました。



車両関係事業

売上高
16,906百万円
(前期比0.5%減)

営業利益
310百万円
(前期比103.6%増)



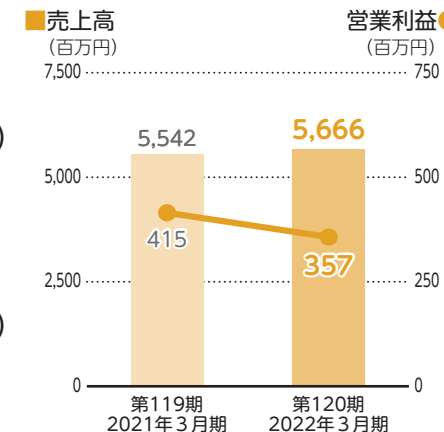
概況

車両関係事業は、世界的な半導体不足の影響でメーカーの生産が停止した影響を受け、中古車販売は下取在庫が遅れたため、前年同期の実績を下回りました。一方、登録車、輸入車販売は、前期からの受注残により前年同期並みの実績となりました。サービス部門は、総在庫台数が前年同期を下回ったものの、車検台数の増加及び提案力の向上により1台当たり売上単価が増加したため、前年同期の実績を上回りました。

電機機器事業

売上高
5,666百万円
(前期比2.3%増)

営業利益
357百万円
(前期比13.9%減)



概況

主力のF A関連機器は、電機機器メーカーの納期遅延の影響はあるものの、一定量の部品が確保できたこととシステム案件が堅調に推移したことにより、前年同期の実績を上回りました。また空調周辺部材、設備機器も前年同期の実績を上回りました。一方、空調機器は、前年同期のような大型案件がなかったため、前年同期の実績を下回りました。また冷熱機器は新型コロナウイルス感染症の影響による新築工事案件の減少、半導体不足による機器納期遅延のため、前年同期の実績を下回りました。

不動産等賃貸事業

売上高
144百万円 (前期比17.9%増)

営業利益
52百万円 (前年同期は1百万円の利益)

連結貸借対照表

	当 期 2022年3月31日現在	前 期 2021年3月31日現在
資産の部		
流動資産	16,622,298	13,898,125
現金及び預金	7,559,922	6,487,543
受取手形、売掛金及び契約資産	5,107,298	2,813,519
電子記録債権	848,208	683,704
たな卸資産	2,567,082	3,552,647
その他	591,413	382,052
貸倒引当金	△ 51,627	△ 21,342
固定資産	10,423,430	10,994,126
有形固定資産	7,786,265	7,725,126
建物及び構築物	3,365,733	3,430,137
土地	3,043,980	3,052,399
その他	1,376,551	1,242,589
無形固定資産	323,913	291,892
投資その他の資産	2,313,250	2,977,108
投資有価証券	1,959,089	2,572,240
その他	363,090	414,254
貸倒引当金	△ 8,929	△ 9,386
資産合計	27,045,729	24,892,252

(単位：千円)		
	当 期 2022年3月31日現在	前 期 2021年3月31日現在
負債の部		
流動負債	11,781,183	9,550,936
支払手形及び買掛金	4,237,535	3,573,723
その他	7,543,648	5,977,213
固定負債	1,442,624	1,808,721
負債合計	13,223,808	11,359,658
純資産の部		
株主資本	13,080,906	12,420,917
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	3,151,288	3,151,288
利益剰余金	9,938,372	9,198,268
自己株式	△ 108,754	△ 28,640
その他の包括利益累計額	741,013	1,111,676
その他有価証券評価差額金	741,013	1,111,676
純資産合計	13,821,920	13,532,593
負債及び純資産合計	27,045,729	24,892,252

連結損益計算書

(単位：千円)		
	当 期 2021年4月 1日～ 2022年3月31日	前 期 2020年4月 1日～ 2021年3月31日
売上高	31,401,491	31,666,615
売上原価	24,634,458	25,067,391
販売費及び一般管理費	6,207,518	5,821,122
営業利益	559,513	778,100
営業外収益	162,568	180,272
営業外費用	25,880	62,645
経常利益	696,202	895,727
特別利益	348,947	1,609
特別損失	56,302	1,535,950
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失 (△)	988,846	△ 638,613
法人税、住民税及び事業税	232,202	233,180
法人税等調整額	5,801	△ 24,716
当期純利益又は当期純損失 (△)	750,843	△ 847,076
非支配株主に帰属する当期純利益	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失 (△)	750,843	△ 847,076

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)		
	当 期 2021年4月 1日～ 2022年3月31日	前 期 2020年4月 1日～ 2021年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	1,746,461	2,512,208
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 889,088	△ 1,306,703
財務活動による キャッシュ・フロー	310,621	607,723
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	1,167,994	1,813,227
現金及び現金同等物の 期首残高	6,348,526	4,535,298
現金及び現金同等物の 期末残高	7,516,521	6,348,526

◎ホームページのご案内◎

最新のIR情報につきましては、当社のホームページ「IR情報」をご参照ください。

<https://www.seiko-co.com/>



JAPAN PACK 2022（日本包装産業展）に出展（産業機械事業）

当社は2022年2月15日～2月18日に東京ビッグサイトで開催されたJAPAN PACK 2022に出展いたしました。

「未来を創る リサイズ！イノベーション」をテーマに、スペース効率を高める省スペース化だけでなく、新しい視点からの機械作りによる省人化、省エネルギー、省コストを実現する革新的な新商品の提案を行いました。

「ロボット式容器整列機」【開発機】



最新鋭のリニア搬送技術で安定した搬送を実現

「THE COMPACT BTW」【開発機】



能力そのままで小型化、エアレスで省エネ

「ダブルデスピ®充填機」【開発機】



充填・洗浄同時運用システム
“ダブルデスピ®”を大幅リニューアル

スバルディーラー全国初！『WHILL（ウィル）』の取扱いを開始

連結子会社である静岡スバル自動車株式会社は、全国のスバルディーラーで初めて免許不要の近距離モビリティ『WHILL』の販売を2022年3月24日より開始いたしました。

段差や悪路でも安定感のある「WHILL Model C2」と、折りたたみができる「WHILL Model F」の2タイプを展開しております。

お客さまがスバル車にお乗りいただいている期間だけではなく、免許返納後もライフパートナーとして生涯にわたってサポートをしていく、という強い思いから『WHILL』の取扱いに至りました。

クルマに代わる移動手段として免許不要の『WHILL』を提案することで、自動車を卒業されたお客さまの人生をより明るく豊かにサポートしてまいります。

WHILL Model C2



会社概要

（2022年3月31日現在）

社名	静甲株式会社（SEIKO CORPORATION）
本社所在地	静岡県静岡市清水区天神二丁目8番1号
設立	1939年（昭和14年）5月18日
資本金	1億円
従業員数	400名

役員

（2022年6月24日現在）

代表取締役 取締役社長	鈴木 恵子
代表取締役 専務取締役	鈴木 武夫
取締役	大石 透
取締役	鈴木 康之
取締役	山下 一弘
取締役	鈴木 浩之
取締役	鈴木 孝典
社外取締役	小林 和仁
常勤監査役	櫻井 嘉夫
社外監査役	戸塚 伸久
社外監査役	大津 善敬
社外監査役	山口 貴史

株式の状況

（2022年3月31日現在）

発行可能株式総数	19,200,000株
発行済株式総数	6,295,717株 （自己株式187,606株を除く）
株主数	993名

大株主（上位10名）

株主名	持株数 （株）	持株比率 （％）
鈴与ホールディングス株式会社	1,832,260	29.10
鈴木 恵子	926,370	14.71
有限会社ティ・エム・ケイ	617,600	9.80
株式会社静岡銀行	311,500	4.94
株式会社清水銀行	309,290	4.91
清水食品株式会社	204,000	3.24
静甲従業員持株会	178,200	2.83
鈴与自動車運送株式会社	104,000	1.65
中島 和信	99,900	1.58
清水運送株式会社	80,000	1.27

（注）持株比率は自己株式（187,606株）を控除して計算しております。